

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

話すこと・聞くこと部 研究主題

自己充実を目指し、「求めて聞く子」を育成する指導と評価の工夫

第3学年国語科学習指導案

単元名 「実は、わたし〇〇なんです！」 楽しく聞いて、もっとなかよくなるろう！

日時：令和4年12月8日(木)5校時
児童：葛飾区立渋江小学校 第3学1組 27名
担任：葛飾区立渋江小学校 主任教諭 竹株 陽香
指導者：葛飾区立渋江小学校 主任教諭 竹株 陽香

1 単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。
- (2) 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉え、自分の考えをもつことができる。
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	①「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉え、自分の考えをもつことができる。	①学習の見通しをもってすすんで記録したり質問したりしながら聞き、学習課題に沿って工夫してメモを取ったり、それを基に自分の考えを伝えようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

3年生の児童は、自分の考えを伝えようととても意欲的な時期である。相手の状況や立場も少しずつ理解できるようになり、自分との共通点や相違点を比較できるようになってくる。しかし、的確な言葉で表現することは難しい実態もある。自己主張が強い児童の発言によって話が進んでしまうこともある。

「話すこと・聞くことの課題」としては、話の中心や話の場面を意識して自分の考えを相手に伝えたり、相手の伝えたいことの中心を捉えながら聞いたりすることがある。また、話し手が伝えたいことや話す内容に対して自分の考えをもって聞こうとする態度や話を聞いて質問や付け足しをしながら話の内容を膨らませようとする態度の育成がさらに必要である。

本単元では、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力の育成を目指す。3人のグループを構成し、主体的に聞くことで話に加わったり広げたりする活動を通して、言葉でのやり取りや反応を楽しみながら体験的に相互理解を深める姿を目指したい。

(2) 話題について（学習材観）

・3年生の実態に合った話題

3年生になり、集団の規則を理解して集団活動に主体的に関与したり、遊びなどでは自分たちで決まりをつくってルールを守ったりすることができるようになってきている。その一方で、ギャングエイジと呼ばれる発達段階を迎え、閉鎖的な集団も発生し、特定の子とだけ関わって相手から影響を受ける付和雷同的な行動も見られるようになってきているという課題もある。

このような時期に、互いのことを今まで以上に深く知ることができる話題でのやり取りを通して、相手との共通点や相違点に気づき、相手への理解を深めることにつながると考える。

・「実際の生活の場に生きる」話題

互いに友達のことをよく知り、深い関係を築くためには、相手との共通点や相違点を見付ける必要がある。話し手の立場では、自分のことを詳しく語り、友達に知ってもらうことを目指している。聞き手の立場では、相手と共通点や相違点を探しながら聞くことを目指している。このような経験を積み重ねていくことで、4年生から始まるクラブ活動や高学年で行う委員会活動、学級活動などの実生活への活用にもつなげられると考える。

・「聞く」必然性のある話題

これまで以上に友達をよく知ったり、知ってもらったりするためには、様々な立場ですすんで聞くことが必要である。「実は、わたし〇〇なんです」というまだ知らない友達の新たな一面を聞く話題は、児童の興味・関心や主体性を高めるのに効果的であると考える。新たな一面を知るために友達と自分との共通点や相違点を考えながら話を聞くことで、話題を広げたり深めたりすることができるようにしていきたい。

(3) 単元について（単元観）

・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えながら、相手や目的を意識して聞くことで、自分の考えをもつ力の育成をねらう。

【話題例】

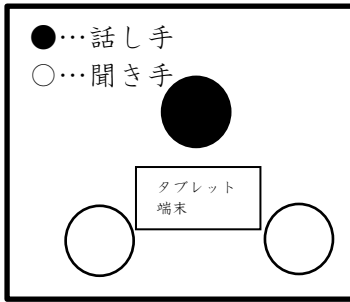
・みんながまだ知らないひみつの〇〇（自分に関すること）

…得意、趣味、食べ物、教科、遊び、音楽、チーム、生き物、地域、場所、給食、習い事、学校行事、6年生との思い出、掃除など

・全体で多くの話題を出し合った後、一人一人がどの話題で話をするか決定し、グループを構成する。

【話合いの仕方】

- ① メンバーは3名で構成する。
- ② 第3時・第4時・第5時にそれぞれ行き、合計3回行う。
- ③ 探検ボード、リアクションカードを持って円形になり、互いに向かい合って座る。



【話し合いのモデル例】

A話し手、B・C：聞き手

話し手	話し合いのモデル	流れ	「聞き手」のモデル
A	<p>今日は、わたしのことをみんなにたくさん知ってもらいたいのので、質問などしてもらえると嬉しいです。どうぞよろしくお願いします。</p> <p>実はわたし、水泳が一番得意なんです。その中でもバタフライが一番得意です。理由は、泳いでいてとても気持ちがよくなるからです。</p>	<p>今回の話の中心が話をする。 話の目的と進め方を確認する。</p> <p>聞き手が反応 ↓ 話し手が指名 ↓</p>	<p>話す人の方を見ながら聞く。話の内容に関心をもって、司会の話にリアクションカードの「いいねマーク」で反応する。</p> <p>友達の「得意な水泳」について聞くという目的を確認する。</p>
B	<p>そうなんだ。Aさんは、水泳の中でもバタフライが得意なんですね。かっこいいですね。質問ですが、バタフライはいつから泳げるようになったんですか？</p>	<p>聞き手が話す。 話の共通点と相違点を明らかにする。</p>	<p>友達が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を「記録メモ」にどのように書くかを考えながら聞く。</p> <p>相手に共感を示す場合は、リアクションカードの「いいねマーク」で示す。</p>
A	<p>バタフライができるようになったのは小学校3年生になってすぐくらいです。水泳は、幼稚園の時からしています。</p>	<p>話し手は質問に答える。</p>	<p>相手に質問をしたい場合は、リアクションカードの「クエスチョンマーク」で示す。</p>
B	<p>Aさんは、長く水泳をしているんですね。3年生になってバタフ</p>	<p>話を共感的に聞く。 聞き手が反応</p>	<p>「おたずねメモ」を確認して、話にいつでも参加できるようにしておく。</p> <p>B：「いいねマーク」を示す。</p>

A	ライができるようになったのはすごいと思います。	↓ 話し手が指名	C: 「クエスチョンマーク」を示す。
C	ありがとうございます。Cさんはどうですか。	↓	
A	ぼくは、水泳が苦手なので、バタフライも泳いだことがありません。Aさんは、どうやって泳げるようになったんですか。	聞き手が話す。 分からないことや聞きたいことについて質問する。 質問に答える。	目的を意識して、「おたずねメモ」をもとに相手に聞きたいことを考えて聞く。 話の共通点や相違点を考えながら聞き、自分と比較する。
C	わたしは、週に2回習い事で練習しています。時々家族でプールに行っって練習することもあります。		
A	へー。たくさん練習しているんですね。	話が膨らまない時には、得意な理由の二つ目を話題にして話を進める。 聞き手が話す。	
B	実は、得意な理由がもう一つあるんです。それは、水泳の大会でバタフライで優勝したんです。	↓	
A	Aさんすごいですね。優勝した時はどんな気持ちでしたか。	話し手が話す。	
A	いつも負けてしまう相手に勝ったのでうれしいです。Cさんどうぞ。	話合いについて感想を聞く。 聞き手が答える。	
B	(話合いを続ける。)		
C	私の話はどうでしたか。		
C	バタフライができるのがすごいと思いました。今度教えてください。		
A	大会で優勝したことがあるなんて知らなかったのでびっくりしました。	最後に中心となる話し手の言葉で終わる。	
	ありがとうございます。今日は、みんなに話を聞いてもらえてうれしかったです。これで終わります。		話合いが終わったら記録メモに記入する。

4 研究主題に迫るために

中学年分科会重点
相手や目的を意識して聞き、自分の考えをもつ。

(1) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

ただ聞くのではなく、「まだ知らない友達の一面を聞き出す」という友達への理解を深めるために話を聞くことが、相互理解を深め、話すこと・聞くことよさを実感させ、自己実現を図ることにつながると考えた。そして、児童が互いを深く知るために聞こうとすることが、中学年としての求めて聞く姿の深まりであると捉えた。聞くことは話し手の話を聞くという一方的な行為になりがちであるが、本単元では聞き方を理解できるように聞き方のモデルを提示して、聞き手が能動的に反応を示しながら聞くことで、目的を明確にもって双方向的に話に参加できるようにする。事前に聞きたいことを「おたずねメモ」として用意しておくことで、自分の考えと比べながら聞けるようにする。話し合いで分かったことを「記録メモ」に書くことで、話の内容を振り返ったり、自分の考えをまとめたりできるようにする。主体的に求めて聞く経験を3回行い、積み重ねていくことで、学びの質を深めていけるようにする。

(2) 学びの質の向上を図る単元の工夫

①単元を通して身に付けさせたい力及び単元の目標設定について

話し手となる児童は、友達に自分のまだ知らない一面を伝えるために具体的な情報を伝えるようにする。一方、聞き手となる児童は、話し手が自己開示したくなるように共感的に話を受け止めるようにする。そして、友達の話聞いて反応した、事前に作成したおたずねメモを基に質問したり、話題を広げたりすることで、互いに新たな一面を理解し合うという目的をもって意欲的に聞くことができるようにする。本単元では、中学年の発達段階を考え、友達の話聞いて自分との共通点を意識して聞く力を高めることを重点とする。話し合いを通して友達の話をよく聞き話し手が伝えたいことを中心に捉え、自分の考えを形成する力の育成を目指す。

②主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善につながる工夫

中学年児童にとって聞く必然性のある話題にするために、「実は、わたし〇〇なんです!」という話題を設定し、友達の話聞いて新たな一面を知ったり友達の考えに対する自分の思いを伝えたりすることで、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。友達の話をよく聞き、反応するという状況を意図的に設定することで主体的にけるようにする。そのために、うちのリアクションカードを用いて友達の話共感的に受け止め、目的をもって聞きながら双方向的に話に参加することで、対話的な楽しい学びになるよう工夫する。さらに、話し合いの記録メモを写真で撮り、タブレット端末で共有することを通して、児童同士の相互理解を深め、自己充実を図ることができるようにする。

(3) 評価活動の工夫

①「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果をとらえる評価の工夫

本単元では、話し合いのめあてを話し手・聞き手の立場に応じて自分で決めるようにする。また、話し合いの前に事前に準備しておく「おたずねメモ」と話の内容を振り返ったり自分の考えをまとめたりする「記録メモ」という、目的の異なる2種類のメモを活用する。児童が「おたずねメモ」や「記録メモ」を書くことによって、児童の変容を教師が評価できるようにする。さらに、児童がリアクションを示しながら主体的に聞くことができたかどうかを確認するための児童の自己評価にもつなげることができる。話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える力の育成に向けて、話し合いを3回行うことで、目的を意識しながらメモの書き方を見直したり、目的に合わせてよりよいメモにしようと改善を図ったりすることができるようにする。児童が自らの学びを調整しながら学びを積み重ねることで、自己の成長を実感できるようにする。

②教師が指導の改善を図るための評価の工夫

児童の「おたずねメモ」や「記録メモ」を通して、児童が自らの聞く力を自覚して学びを調整したり、教師が児童の聞く力を把握したりすることにつながれると考える。活動の様子や2種類のメモから、児童の成長を見取り、価値付けることができるようにする。うちわを活用したりアクションやうなずき、「おたずねメモ」を生かした聞き手への質問や付け足しなど、求めて聞く姿が様々な場面で表現されるような学習活動を設定することで、主体的に聞く姿や児童の思考を多面的・多角的に視覚化して捉えられるようにする。

③児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

第3時～第5時の振り返りの時間で、話し合いで分かった友達の新たな一面を記録メモに残し、タブレット端末で全体共有する活動を行うようにする。互いの記録メモを見合うことによって、友達の新たな一面を知ると共に、メモの取り方や質問内容なども振り返り、次の時間の話し合いに生かすことができる。

5 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1	1	<p>1 教師の「実は、わたし○○なんです！」を聞く。</p> <p>2 教師が作成した話合いのモデル映像を視聴する。</p> <p>3 話合いでのそれぞれの役割や流れを確認する。</p> <div data-bbox="323 817 756 947" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 グループの人数 3人 【役割】 ・話し手 1人・聞き手 2人</p> </div> <p>4 「おたずねメモ」をもとに話を聞いて、質問をしたり、話を付け加えたりする活動を知ることを知る。</p> <p>5 単元を決める。</p> <div data-bbox="323 1182 1410 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「実は、わたし（ぼく）○○なんです！楽しく聞いてもっとなかよくなるう！」</p> </div> <p>6 学習計画を立てる。</p> <p>7 友達に話したい話題を決める。</p> <p>8 本時の振り返りをする。</p>	<p>○普段の生活の中では知ることができないような教師の新しい一面を知ることによって、お互いへの理解を深めることができることを価値付ける。</p> <p>○教師が作成したモデル映像を視聴することで、学習への意欲を高められるようにする。</p> <p>○他にどんな質問ができるか考えるようにする。</p> <p>○学習のゴールに対しての見通しをもつ。</p> <p>○聞き手は話を聞くだけでなく、「おたずねメモ」をもとに話し手に質問をしたり話題を広げたりすることができることを伝える。</p> <p>○話し手に対して、聞き手はうちのリアクションカードで反応を示すようにする。</p> <p>○進んで話したり聞いたりすることができるように、児童が互いに知っていることや興味・関心のあることをお話の話題にするように伝える。</p>	<p>◆主体的① 学習の見通しをもって進んで記録したり質問したりしながら聞き、学習課題に沿って工夫してメモを取ったり、それを基に自分の考えを伝えようとしている。 ★観察・ワークシート</p>
2	2	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。</p> <div data-bbox="323 1794 1417 1870" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達の話題について知り、おたずねメモを考えよう。</p> </div> <p>2 グループで自分が話す話題を伝える。</p>	<p>○おたずねメモを作成するにあたって事前に話題を共有し合う。</p>	<p>◆知識・理解①</p>

	<p>3 教師が作成したモデル文のおたずねメモをもとに、話合いで話したり質問したりしたいことを「おたずねメモ」に書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>【おたずねメモの内容】 (1) 自分の考え。 (2) 質問したいこと。</p> </div> <p>4 本時の振り返りをする。</p>	<p>○話に参加できるようなメモを作成するよう、「おたずねメモ」の意義を全体で確認する。</p>	<p>考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 ★観察・ワークシート</p>
<p>3</p>	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>おたずねメモをもとに友達の話进行聞こう。①</p> </div> <p>2 「記録メモ」の書き方を確認する。</p> <p>3 前時に作成した「おたずねメモ」をもとに、共通点や相違点を見付けたり質問したりする。</p> <p>4 話合いで話したことや考えたことを記録メモに書く。</p> <p>5 本時の振り返りをする。</p>	<p>○話題の中心に対する自分の考えや新しく発見したこと（友達との共通点や相違点など）を書くよう、「記録メモ」の書き方を確認する。</p> <p>○友達の話をして聞いて、うちのリアクションカードで反応を示したり、頷いたりしながら共感的に聞くよう促す。</p> <p>○事前に考えたおたずねメモを基に質問して話題を広げたり掘り下げたりするように伝える。</p> <p>○再構成することを意識しながら、「記録メモ」を端的に書くよう助言する。</p> <p>○「記録メモ」を写真に撮り、タブレット端末の共有アプリを活用して相互理解を深めるようにする。</p> <p>○友達をよく知るための聞く技能を次時に生かすように助言する。</p>	<p>◆ 思考・判断・表現① 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉え、自分の考えをもつことができる。 ★観察・メモ・学習感想</p>

4 (本時)	1 前時の学習を振り返り、 本時の学習内容を確認する。		
	おたずねメモをもとに友達の話をお聞きしよう。②		
	2 自分のめあてを確かめる。	○本時の立つ場に応じて自分のめあてを確かめる。	◆思考・判断・表現① 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと、自分の考えをもつことができる。 ★観察・メモ・タブレット端末
	3 「おたずねメモ」をもとに、友達の話をお聞きする。(2回目)	○友達の話をお聞いて、うちのリアクションカードで反応を示したり、頷いたりしながら共感的にお聞きしよう促す。 ○事前に考えたおたずねメモを基に質問して話題を広げたり掘り下げたりするように伝える。	
	4 話合いで話したことや自分が考えたことを「記録メモ」に書く。	○再構成することを意識しながら、「記録メモ」を端的に書くよう助言する。	
	5 本時の振り返りをする。	○話し手は、聞き手に話を聞いてもらったことに対する振り返りをする。 ○「記録メモ」を写真に撮り、タブレット端末の共有アプリを活用して相互理解を深めるようにする。 ○友達をよく知るための聞く技能を次時に生かすように助言する。	
5	1 前時の学習を振り返り、 本時の学習内容を確認する。		
	おたずねメモをもとに友達の話をお聞きしよう。③		
	2 自分のめあてを確かめる。	○本時の立つ場に心して自分のめあてを確かめる。	◆思考・判断・表現① 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きた
	3 「おたずねメモ」をもとに、友達の話をお聞きする。(3回目)	○前時の学習を生かして、友達をより深く知ることができるようにするために、話題を広げたり掘り下げたりするための質問や付け足しを意識するよう伝える。 ○友達の話をお聞いて、うちのリアクションカードで反応を示したり、頷いたりしながら共感的にお聞きしよう促す。	
	4 話合いで話したことや自分が考えたことを「記録メモ」に書く。	○事前に考えたおたずねメモを基に質問して話題を広げたり掘り下げたりするように伝える。	
	5 本時の振り返りをする。	○再構成することを意識しな	

			<p>がら、「記録メモ」を端的に書くよう助言する。</p> <p>○話し手は、聞き手に話を聞いてもらったことに対する振り返りをする。</p> <p>○「記録メモ」を写真に撮り、タブレット端末の共有アプリを活用して相互理解を深めるようにする。</p> <p>○主体的に聞く技能を次の学習や自分の生活につなげようとする意識を高められるようにする。</p>	<p>いことを中心を捉え、自分の考えをもつことができる。</p> <p>★観察・メモ・タブレット端末</p> <p>◆主体的① 学習の見通しをもって進んで記録したり質問したりしながら聞き、学習課題に沿って工夫してメモを取ったり、それを基に自分の考えを伝えようとしている。</p> <p>★タブレット端末・発表・ワークシート</p>
--	--	--	---	---

6 本時の学習
(1) 本時のねらい

必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 前時の学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。	○前時の話合いを想起して、改善点を考えるようにする。児童の困り感を共有するために、前時の振り返りを生かす。 ○話を広げたり深めたりして、話し手がもっと話したいと感じるためには、共感的に受け止めたり、質問や付け足しが必要であることを押さえる。	
おたずねメモをもとに、友達の話进行こう。②		
2 おたずねメモを確かめ、自分のめあてを決める。	○聞き手は、おたずねメモを確かめ、話し手の話題を広げたり掘り下げたりするための質問や付け足しを意識して書くよう伝える。 ○話し手は、友達に伝えたいことの中心を確認するよう助言する。	
3 前時の学習を生かして、「おたずねメモ」をもとに、友達の話进行こう。	○1回目のねらいである「自分の考えをもってすすんで話す」ことから2回目のねらいである「話を広げたり深めたりする」ことにレベルアップするために、相手が話したいことを捉えて聞くことや相手の話に反応を示すことが必要であることを助言する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ おおむね満足できる児童への本時以降の手立て</p> <p>・話の中心を捉えてタイミングよく質問や付け足しをするために、おたずねメモに書いてあることを見返し、リアクションカードを積極的に活用するように指導する。</p> <p>○ おおむね満足できる状況を目指す児童への本時以降の手立て</p> <p>・おたずねメモに書いた自分の考えや質問を確実に伝えられるように指導する。</p> </div>
4 友達の話进行こうを聞いて自分が考えたことを「記録メモ」に書く。	○話題の中心に対する自分の考えや新しく発見したこと（友達との共通点や相違点など）を「記録メモ」に書くことで、自分の聞き方について振り返るよう促す。 ○話し手は、自分の伝えたいことを話すことができたか振り返るよう助言する。	<p>◆ 思考・判断・表現①</p> <p>必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。</p> <p>★観察・メモ・タブレット端末</p>
5 本時の話合いについて、振り返る。	○記録メモを写真に撮り、タブレット端末の共有アプリを活用して互い情報共有する。 (他己紹介)	